

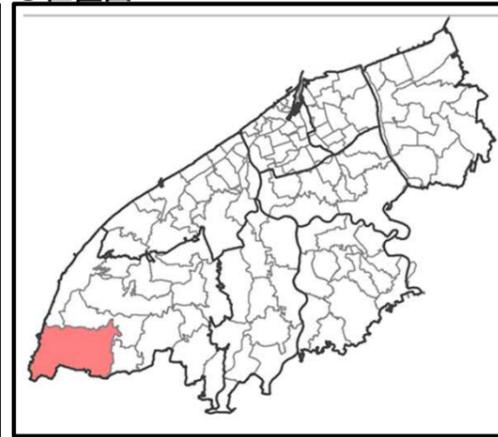
岩室小学校区

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

油島	高畑	
新谷	夏井	
石瀬	西中	
岩室温泉	西長島	
植野新田	西船越	
潟上	橋本	
金池	樋曾	
北野	間瀬	
久保田	南谷内	
栄	横曾根	
猿ヶ瀬		
白鳥		

●位置図



●施設・団体

市役所・区役所等	岩室出張所
警察・消防	岩室駐在所／西蒲消防署岩室出張所
消防団	西蒲方面隊 岩室分団
水防倉庫	—
一時避難場所	岩室野球場、丸小山公園
広域避難場所	—
主 利な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 岩室保育園
	高齢者 福祉施設 遊生の森、ゆきわりの里、いわむろの里、だいろ
	障がい者 福祉施設 自遊館・まほろば、かたくりの里

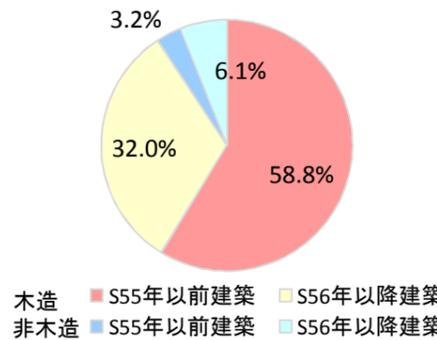
●人口

総人口	4,383人	地区の割合	市の割合
0～4歳	111人	2.5%	4.0%
5～14歳	295人	6.7%	8.5%
15～74歳	3,105人	70.8%	74.6%
75歳～	872人	19.9%	12.9%
65歳以上人口	1,569人	35.8%	26.0%
世帯数	1,535世帯		
一世帯あたり人口	2.9人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	146人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	4,250人	夜間の97.0%	



●建物関連指標

総棟数	3,354棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	1,971棟	58.8%	44.2%
S56年以降建築	1,073棟	32.0%	46.7%
計	3,044棟	90.7%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	107棟	3.2%	3.4%
S56年以降建築	203棟	6.1%	5.7%
計	311棟	9.3%	9.1%
S56年以降建築物	1,276棟	38.0%	52.4%



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]岩室小学校	7.9	3	○	—	全階可	—
[ヒ]岩室中学校	8.2	2	○	—	全階可	—
[ヒ]岩室体育館	7.6	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]岩室地区公民館	7.3	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]岩室保育園	7.7	1	○	—	全階可	○
[ヒ]岩室健康増進センター 「よりのれ」	46.0	2	○	—	全階可	○
[ヒ][ツ]間瀬公民館	9.7	3	○	3階以上	全階可	○
[ヒ]岩室すこやかセンター 「やすら木」	6.3	1	○	—	全階可	○
[ヒ]高屋ふれあいセンター	11.1	1	○	—	全階可	○

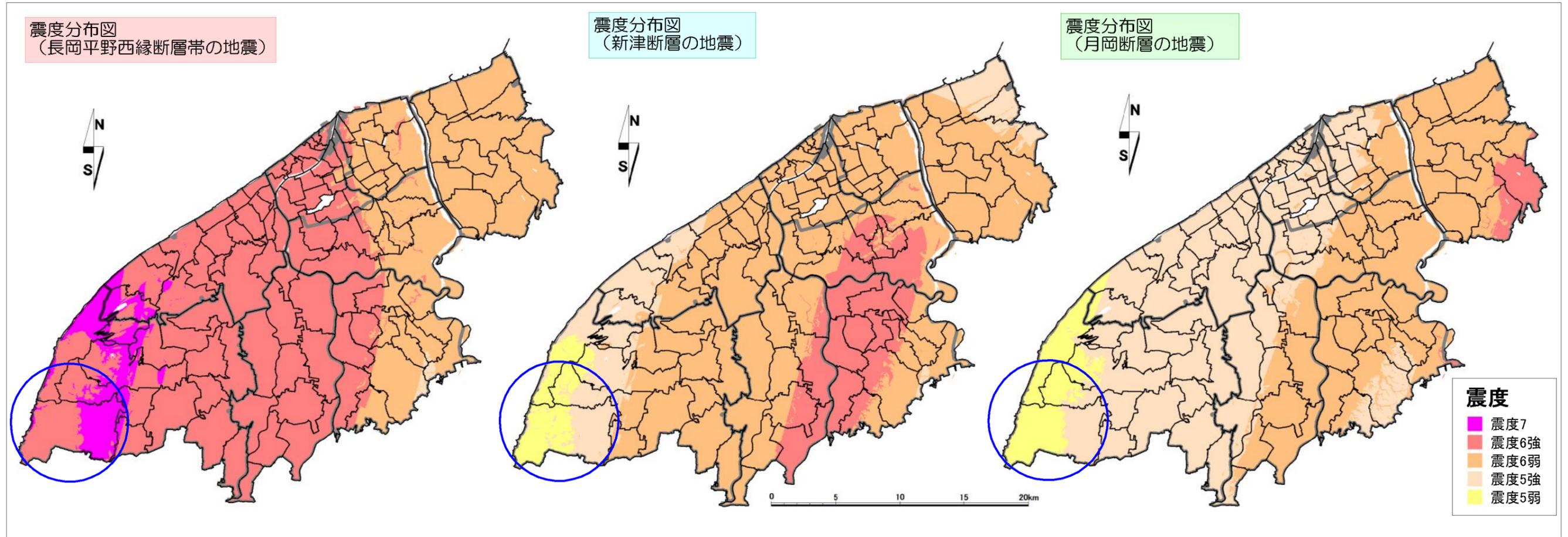
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]巻南小学校	5.4	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]西蒲高等特別支援学校	7.1	3	○	—	全階可	—
[ヒ]巻つし保育園	5.4	1	○	—	×	—
[ヒ]峰岡公民館	7.3	1	○	—	全階可	—
[ヒ]入徳館野外研修場	12.4	1	○	—	全階可	○
[ヒ]和納保育園	5.3	1	○	—	×	—
[ヒ]岩室農村環境改善センター	6.9	1	○	—	全階可	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、「避難可能な階数」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

津波	地震	地区の東部は軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性はある。一方、西部の山地では、強い揺れや液状化の可能性は低いが、揺れに伴う土砂災害等の危険がある。 津波による浸水は、地区西部の海岸部で想定されている。
水害	土砂	矢川の洪水、大河津分水路の洪水、新川・大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。特に、大河津分水路の洪水では、地区東部の低地全域で浸水の可能性がある。 西部の山地には、土砂災害警戒区域等が分布しており、大雨時には、がけ崩れや土石流、地すべりの危険がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

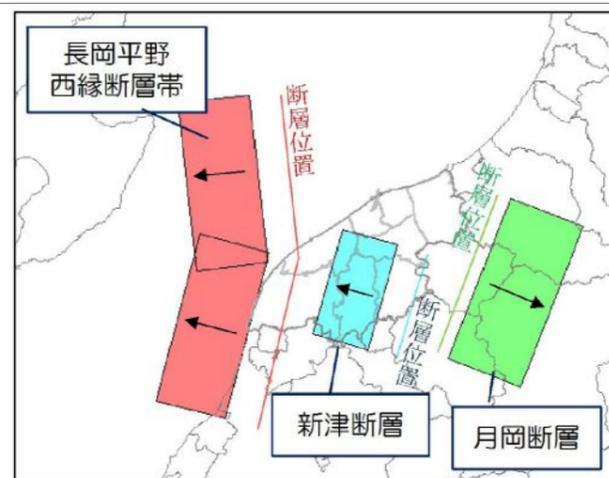
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

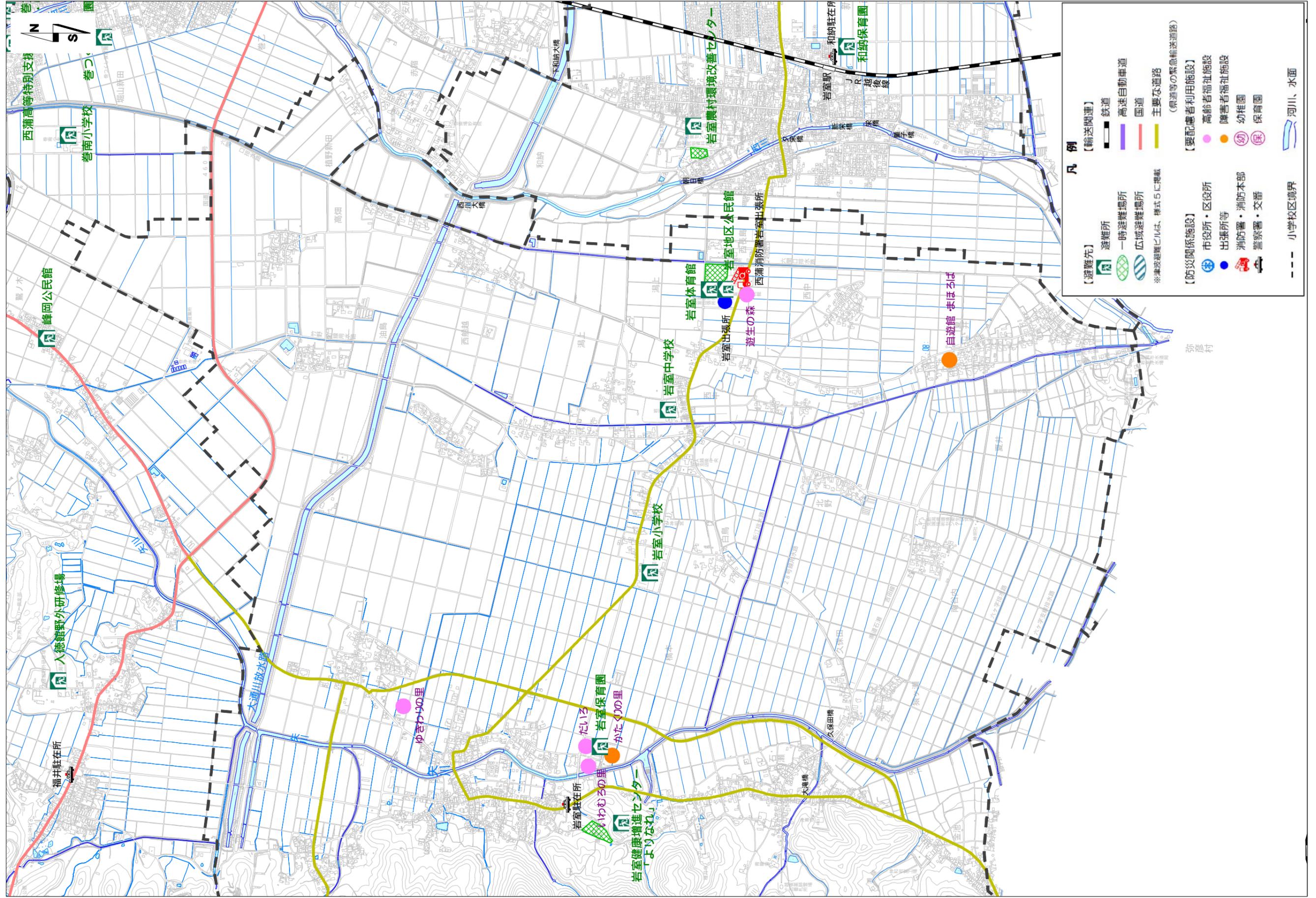
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

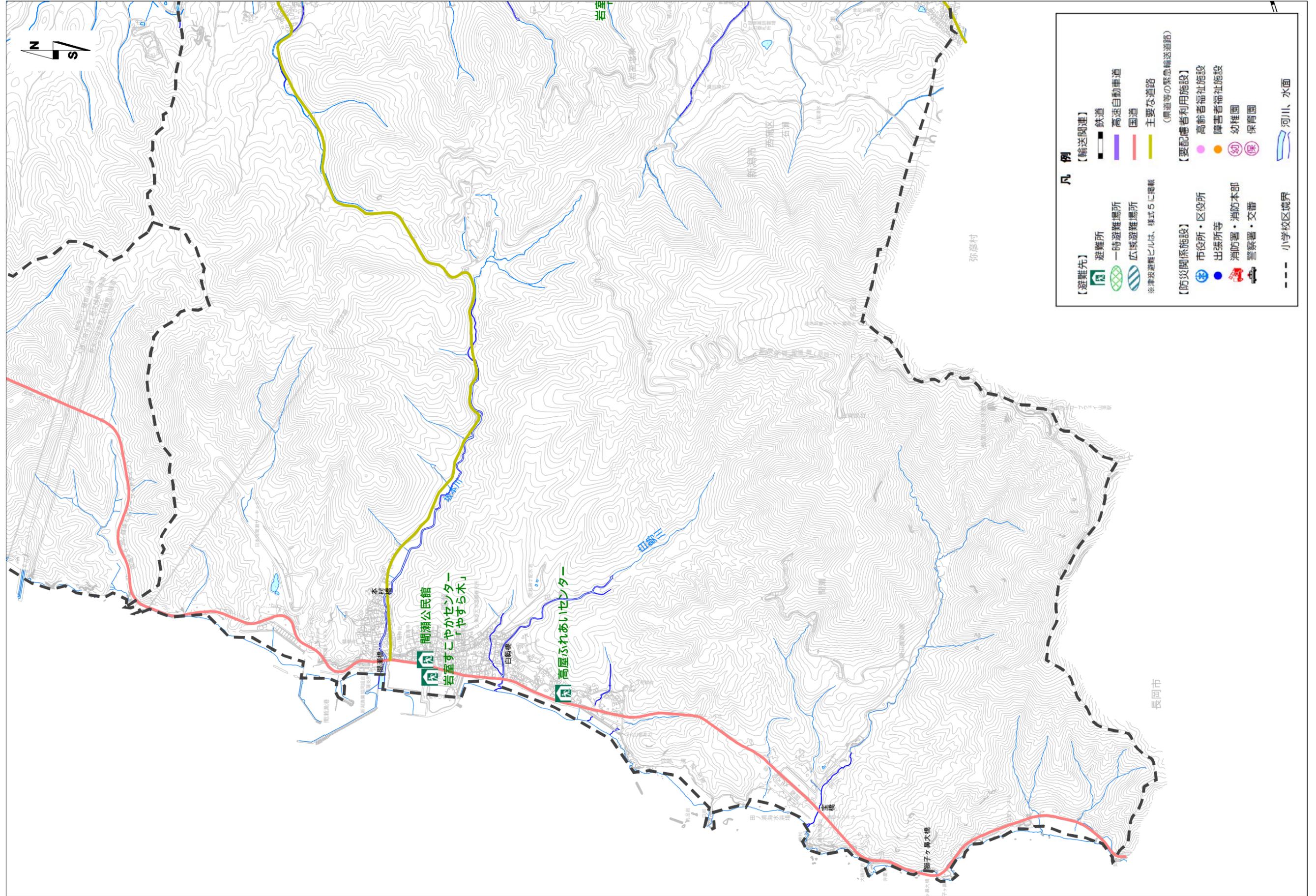


← は、断層の傾きを示しています。



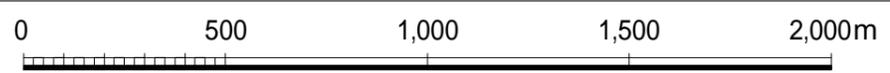
[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

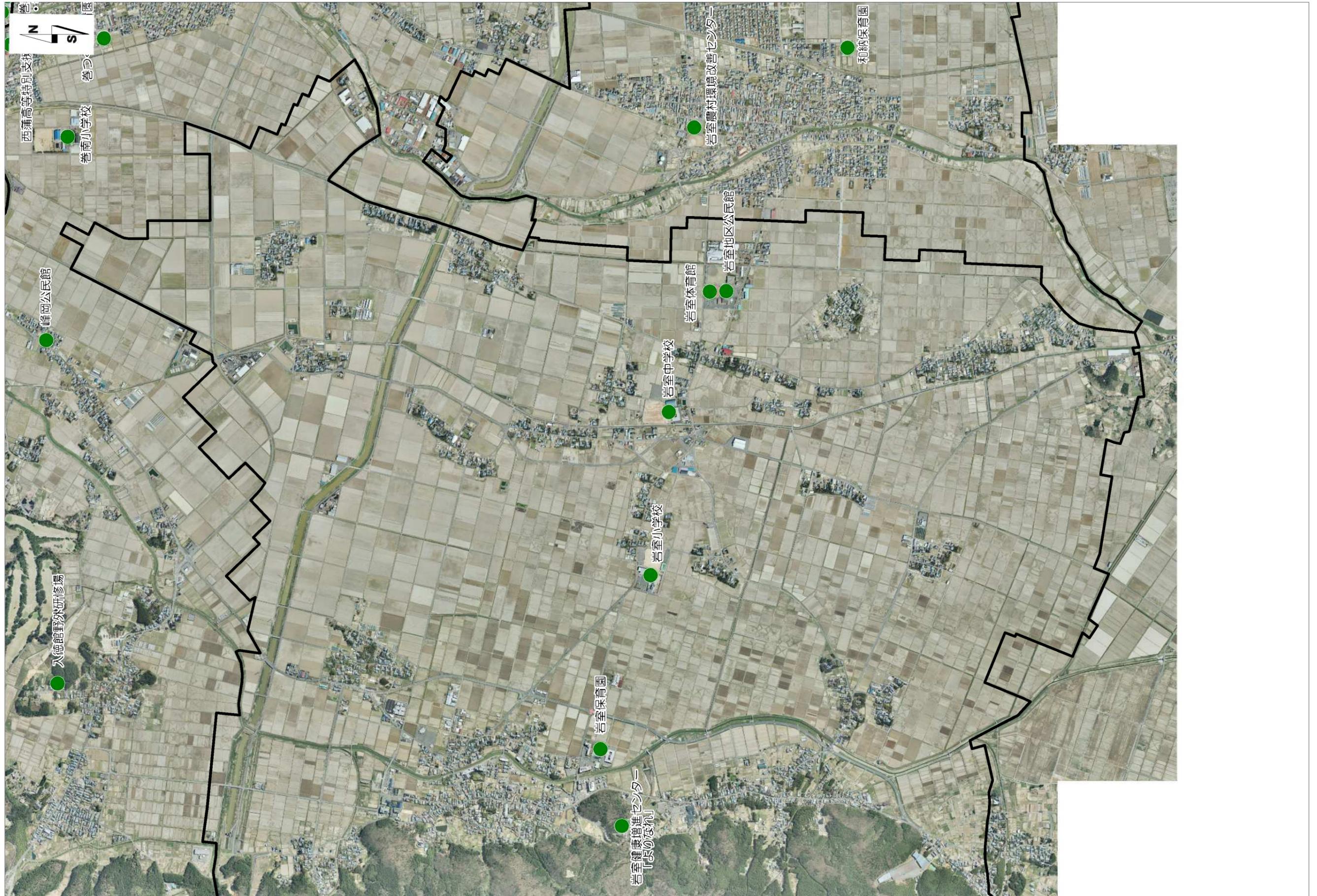
0 500 1,000 1,500 2,000m



凡例	
【避難先】	【輸送関連】
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
※津波避難ビルは、様式5に掲載	主要な道路
	(県道等の緊急輸送道路)
【防災関係施設】	【要配慮者利用施設】
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
--- 小学校区境界	河川、水面

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)

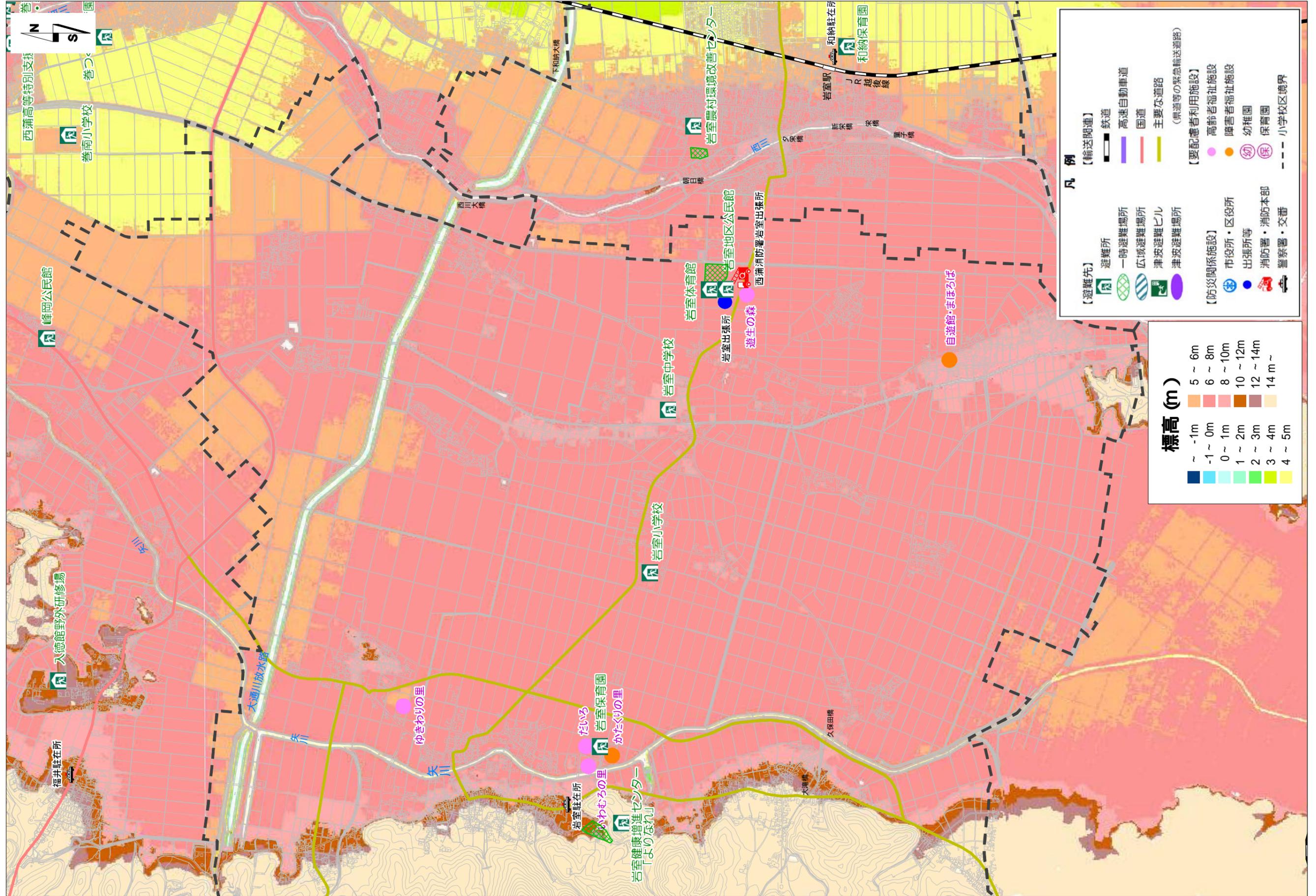




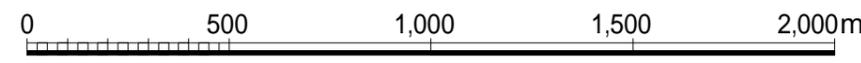


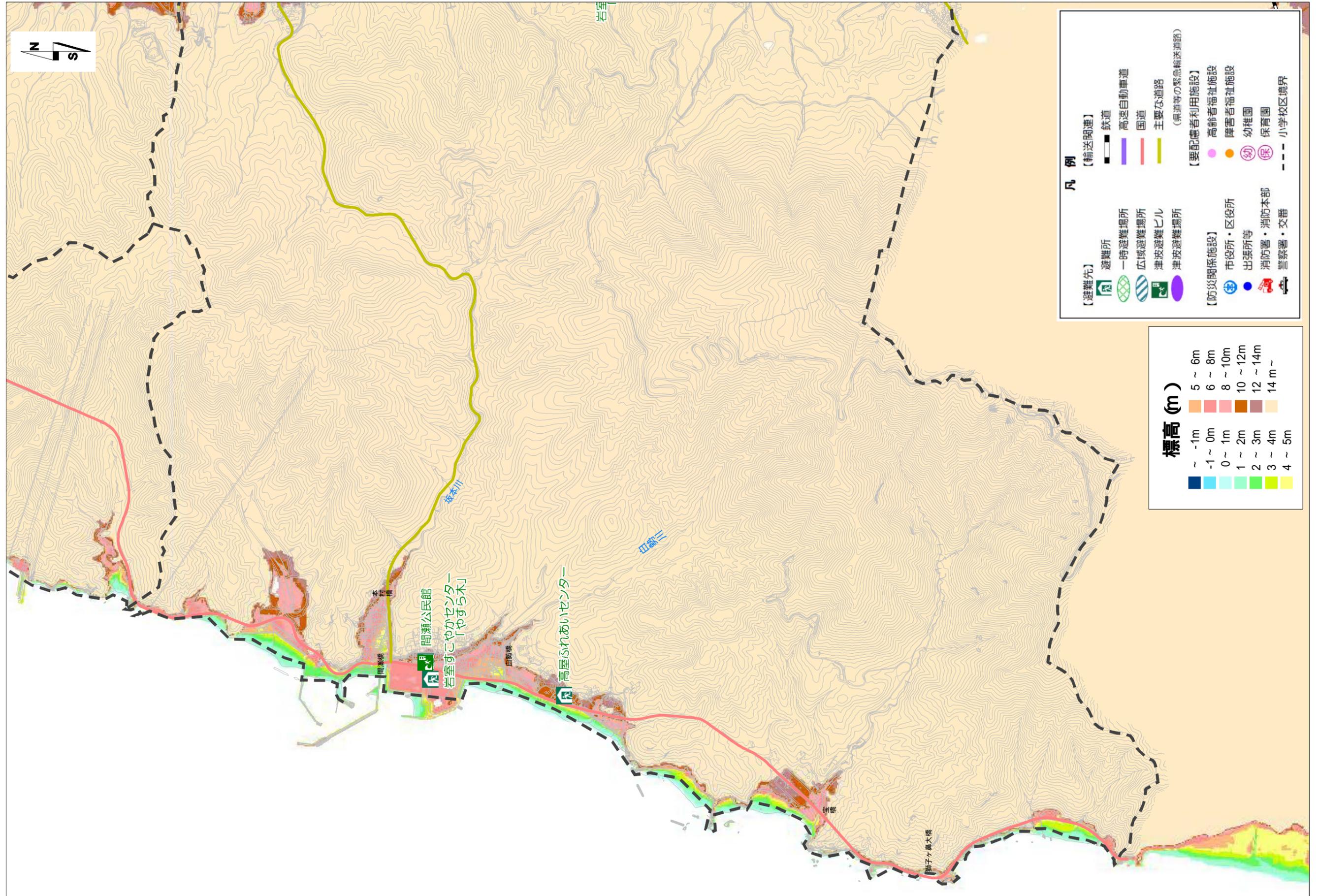
様式5 標高分布図

岩室小学校区(1)



[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



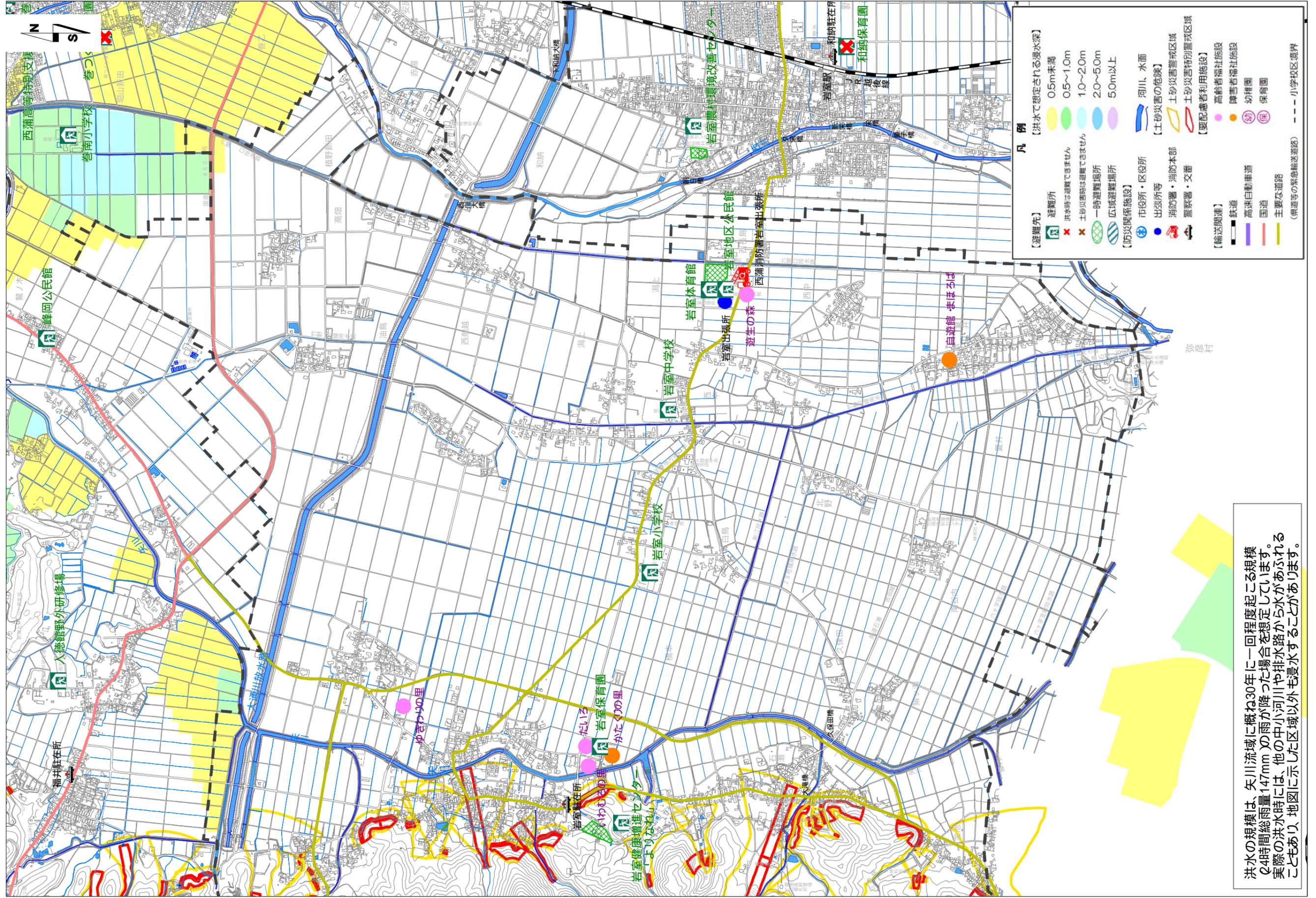


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

0 500 1,000 1,500 2,000m

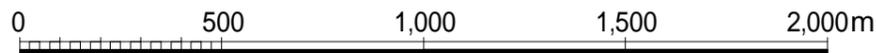
様式6 - 1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（矢川）

岩室小学校区(1)



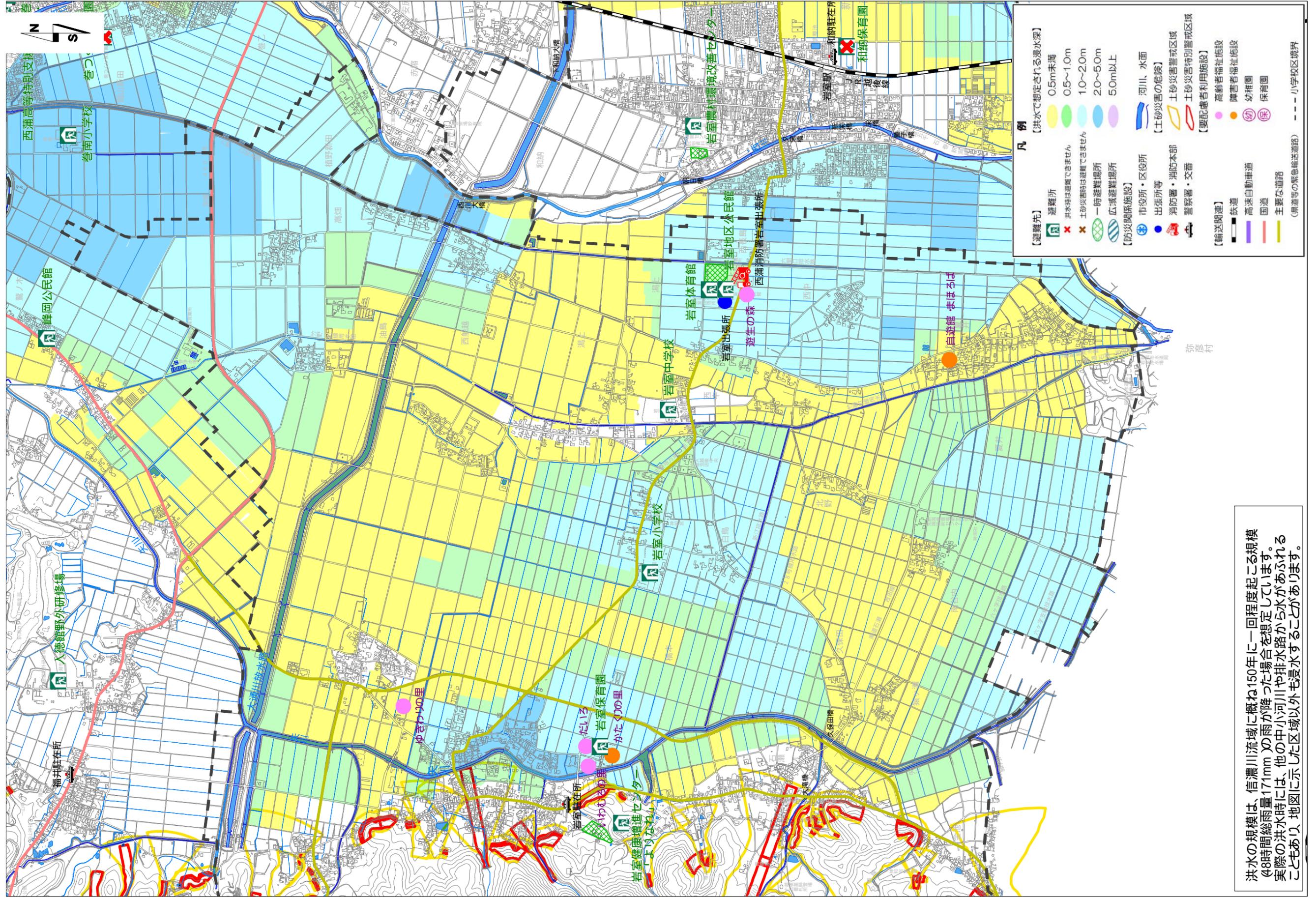
洪水の規模は、矢川流域に概ね30年に一回程度起こる規模 Q4時間総雨量147mmの雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
 矢川浸水想定区域 (新潟県,平成18年8月1日)



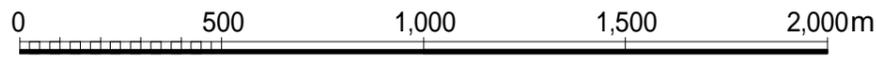
様式6 - 2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

岩室小学校区(1)



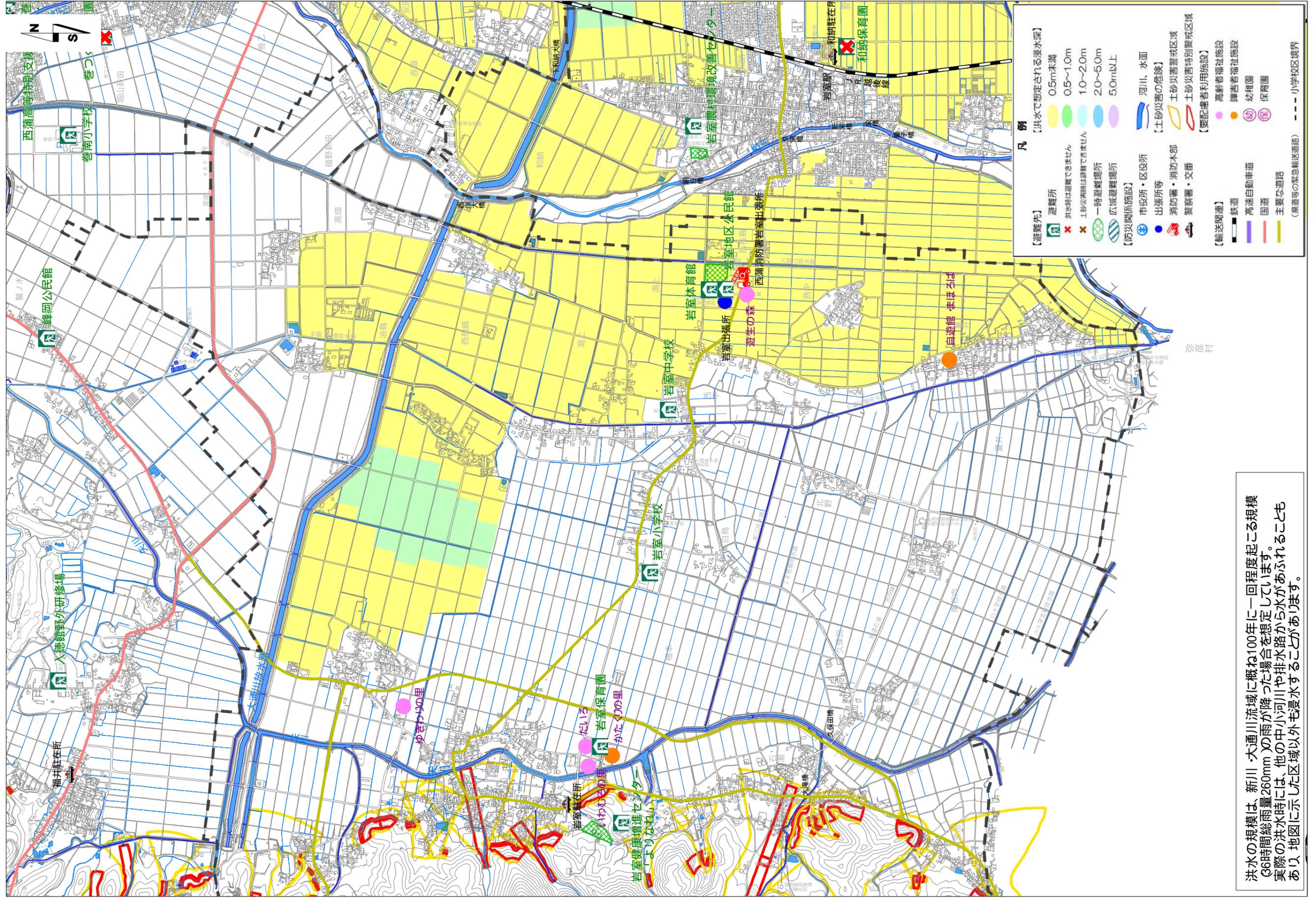
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量171mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路）

岩室小学校区(1)



洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模
 6時間総雨量260mmの雨が降った場合を想定しています。
 実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれること
 あり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域（新潟県、平成20年2月26日）

